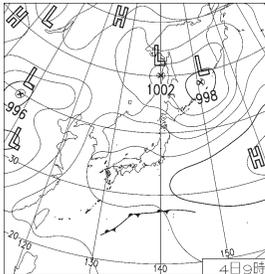


日々の天気図

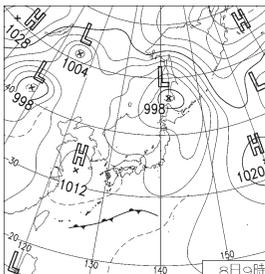
— No. 100

2010年5月

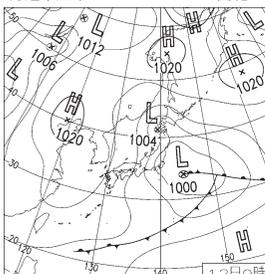
- 4日、西～東日本の各地で今年初の真夏日を記録。
- 16日、前線の影響で沖縄市胡屋で216mmの日降水量を観測。5月の記録を更新。
- 27日、市町村を対象とした気象警報・注意報の発表や雷・竜巻の短時間予報を開始。
(気象庁予報部予報課)



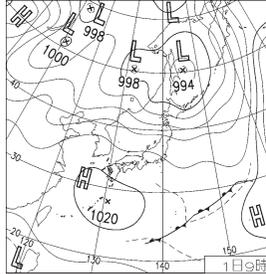
4日(火)西～東日本で真夏日
東北の日本海側を除き、全国的に乾燥した晴天が広がる。広島県安芸太田市加計で最高気温30.7℃となるなど、西～東日本で今年初めての真夏日。九州～福島県で黄砂を観測。



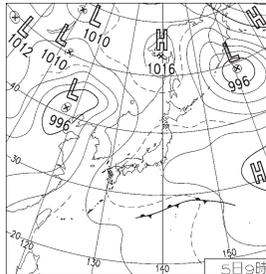
8日(土)さわやかな天気
西日本～東南部は高気圧に覆われ、最小湿度も10～30%台で五月晴れ。東北部を除く北日本は低気圧、南西諸島は前線の影響で曇りや雨。北海道帯広市でエゾヤマザクラ開花。



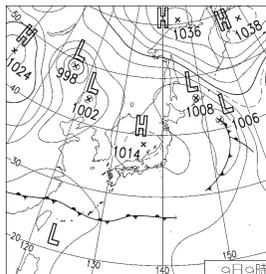
12日(水)関東などで雷
低気圧が関東の東に去るとともに、この時期としては強い寒気が入る。北日本で低温注意報。西～東日本の太平洋側ではほぼ晴れたが関東を中心に雷雨となる。



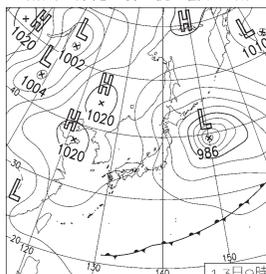
1日(土)北海道で雪解け進む
低気圧がサハリンを通過。暖気が入り、北海道の多数で最高気温が5月中～下旬並。雨も降り、雪解け進む。その他は高気圧に覆われ、南西諸島、西日本の一部で黄砂。



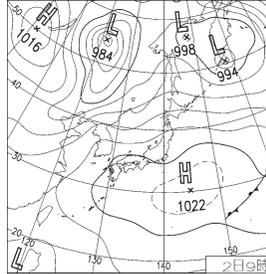
5日(水)こどもの日 立夏
高気圧に覆われ晴れて南風が入ったことから気温が上昇。本州の内陸部では7月並の最高気温も。岐阜県飛騨市では最高気温32.3℃。函館でサクラ開花。札幌でウメ開花。



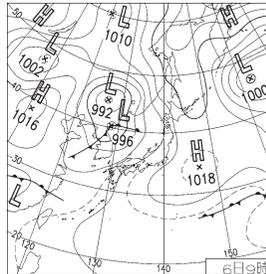
9日(日)本州付近は行楽日和
高気圧の中心に近い近畿～東日本を中心にさわやかな晴れが続く。最高気温は北陸～北日本は平年より低く、九州～関東は5月下旬～7月上旬並の陽気。沖縄は引き続き曇りや雨。



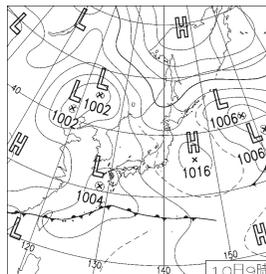
13日(木)寒い一日
日本付近に寒気が入り、日中の最高気温は西日本の一部と東～北日本で3月下旬～4月並。北陸～北日本で平年比10℃以上低い所も。秋田で最高気温9.0℃の3月下旬並。



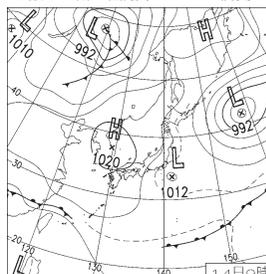
2日(日)八十八夜
高気圧に覆われ全国的に晴れ間が広がり気温上昇。北海道の最高気温は5月中旬～7月下旬並に。先島諸島や関東～東北の山沿いでわか雨。降霜とも別れの時期。那覇市で黄砂。



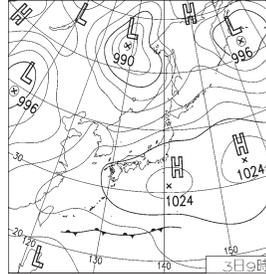
6日(木)暑さ続く
暖気が残り朝の最低気温は、5月下旬～6月並。最高気温は北陸～東北の日本海側を中心に真夏日。福島県若松33.3℃。沖縄・奄美で梅雨入り発表。沖縄県波照間空港で102mm/1h。



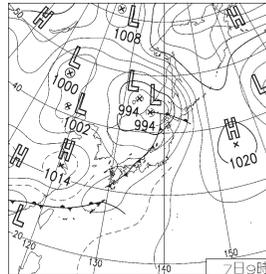
10日(月)天気は西から下り坂
低気圧の接近により西日本から雨となり東日本まで広がる。最高気温は全国的に4～5月並。沖縄県那覇空港では明け方に58.0mm/1hの非常に激しい雨。函館市でサクラ満開。



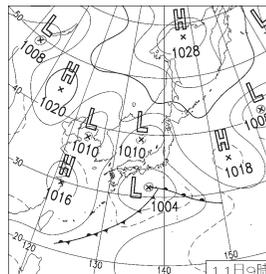
14日(金)肌寒さ続く
九州～関東は概ね晴れるが、沖縄は雨。北陸～北日本など日本海側の一部は寒気の影響を受け、雨で気温の低い状態が続く。北海道室蘭市でサクラ開花。札幌市でサクラ満開。



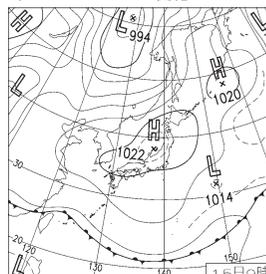
3日(月)全国的に初夏の陽気
高気圧に覆われ全国的に晴れ。午後、北日本日本海側で曇り。最高気温は平年を大きく上回り7月上旬並の所も。関東、岡山県で今年初のスモッグ気象情報発表。函館市でウメ開花。



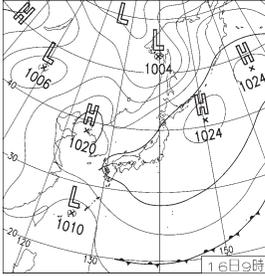
7日(金)寒冷前線通過
日本海の低気圧からのびる寒冷前線が本州を通過。全国的に雨や雷雨となる。暖かく湿った空気が入り、朝の最低気温は最も低い釧路市阿寒湖畔で0.8℃、初の氷点下の観測無し。



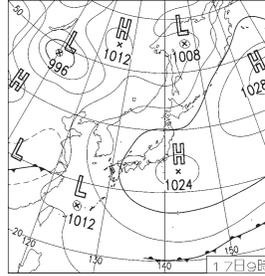
11日(火)広い範囲で雨
本州南岸を東進する低気圧の影響で太平洋側を中心に雨。日本海にある低気圧の影響で日本海側でも広い範囲で雨。北海道では晴れ間も。旭川市でエゾヤマザクラ開花。



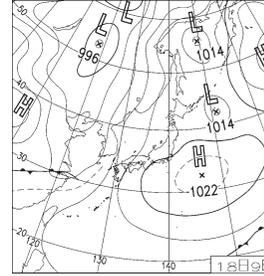
15日(土)さわやかな晴れ
移動性高気圧が本州を覆い、日中は乾燥した晴天が広がる。最高気温は北海道と九州では平年よりも高いが、本州では4月中旬～5月中旬並。東北部では寒気の影響で弱い雨。



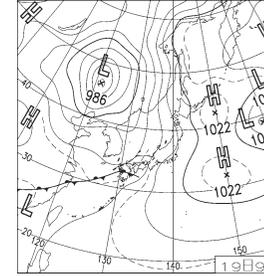
16日(日)沖縄で大雨
梅雨前線の影響で沖縄は大雨。日降水量が沖縄市胡屋で216mm。読谷村座喜味で172.5mmなど5月の記録を更新。九州～北海道は高気圧に覆われ、広い範囲で晴れ。



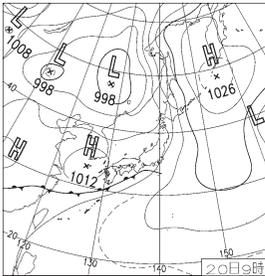
17日(月)高気圧に覆われる
高気圧の中心は東に抜けたが勢力が西に張り出し、九州から北海道にかけて広い範囲で晴れ。沖縄は、前線の影響で曇りや雨。網走市でエゾヤマザクラ開花。



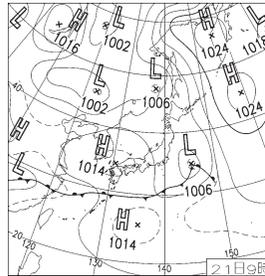
18日(火)チシマザクラ開花
東～北日本では高気圧に覆われ晴れ。気温が高くなり6～7月並。南西諸島～西日本では曇りや雨。盛岡市では最高気温27.5℃で7月下旬並。北海道根室市でチシマザクラ開花。



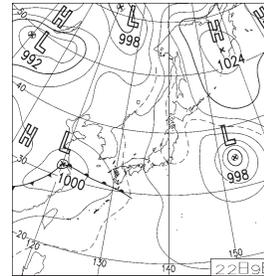
19日(水)西日本太平洋側で大雨
西日本の南岸に前線がのび、西～東日本で雨が続き。鹿児島県甕島中郷で52mm/1hなど九州は激しい雨。北海道は一部を除き日中晴れで最高気温は6～7月並。釧路市でサクラ開花。



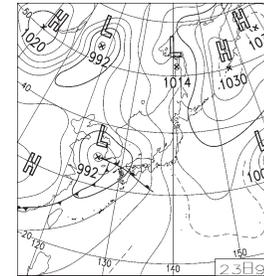
20日(木)沖縄を除き全国的に雨
西日本～関東の南岸にのびる前線と気圧の谷の影響で西～北日本で雨が続き。鹿児島県十島村中ノ島では49.5mm/1hの激しい雨。沖縄は梅雨の中休みの晴れで広く真夏日となる。



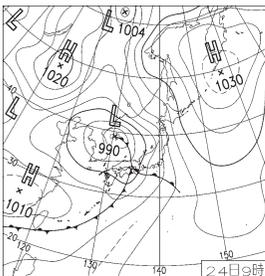
21日(金)東京 今年初の真夏日
日本付近は高気圧に覆われ、広い範囲で晴れ。強い日差しにより気温が上昇し、群馬県館林で最高気温33.4℃など各地で真夏日。東京は最高気温30.9℃で今年初の真夏日。



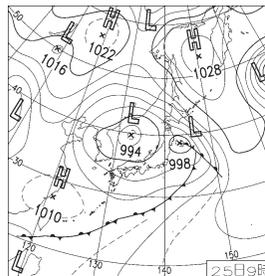
22日(土)西日本中心に黄砂
沖縄～西日本に湿った空気が流入し、大分県佐伯市蒲江で35.5mm/1h等、九州を中心に強い雨。東海以北は晴れや曇り、北海道は寒気の影響で一部雨。西日本や東京で黄砂を観測。



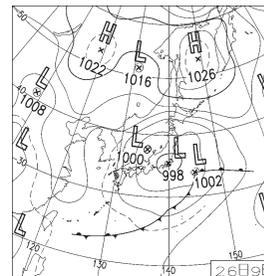
23日(日)九州で非常に激しい雨
晴れたのは北海道と東北北部の日本海側、南西諸島の一部。その他は雨や曇り。低気圧と前線の影響を受け、西日本では各地で非常に激しい雨を観測。熊本県天草市牛深74.5mm/1h。



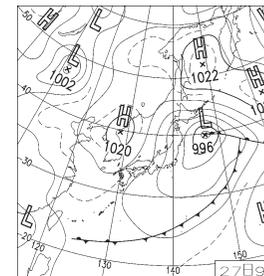
24日(月)西日本で大雨
日本海の低気圧に暖かく湿った空気が流れ込み、西日本の一部で前日から記録的な大雨。高知県では朝までに350mm/24h前後。北海道根室市でチシマザクラ満開。



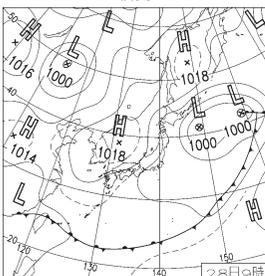
25日(火)今年のサクラ観測終了
西～東日本の太平洋側は晴れて夏日が広がる。北海道と本州の日本海側は雨や曇り。九州～近畿で黄砂。北海道稚内市でエゾヤマザクラが満開になり、今年のサクラ観測終了。



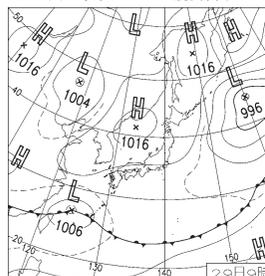
26日(水)関東で雷雨
東～北日本の上空に寒気が入り、大気の状態が不安定となり、広い範囲で雨。甲信では午前中晴れて昇温し、雷雨も。関東～東北の太平洋側では冷たい東風が入り、日中気温上がらず。



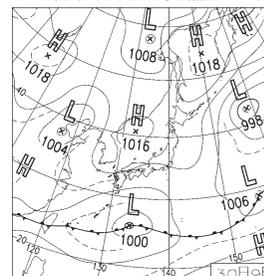
27日(木)市町村警報発表開始
大気的不安定な状態が続き、本州の日本海側や関東甲信で雨。本日13時より市町村等を対象とした警報・注意報の発表と、雷や竜巻のナウキャスト予報発表を開始。



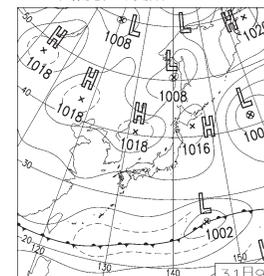
28日(金)北日本、低温続く
日中の最高気温は全国的に低く、北日本、東～西日本の日本海側と近畿では3月下旬～4月並。雨が降り続いた北海道オホーツク海側にある網走市では平年比-11.1℃の4.4℃。



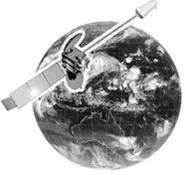
29日(土)沖縄再び大雨に
高気圧に覆われた西日本や北海道は、晴れて日中は暖かき戻す。関東～東北太平洋側は、北東からの湿った気流の影響で曇りや雨で肌寒い一日。沖縄県南大東空港で68.5mm/1hの雨。



30日(日)関東・北陸は肌寒い一日
高気圧に覆われて西日本や北日本は晴れ。北東からの湿った気流の影響を受けた関東と、気圧の谷の影響を受けた北陸は曇り、最高気温は上がらず3月下旬～4月並。

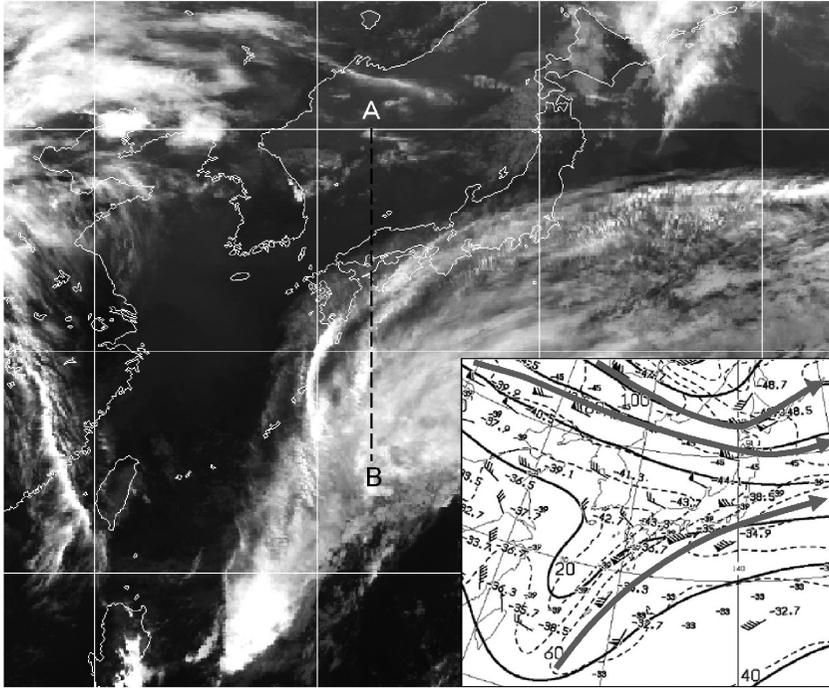


31日(月)全国的に低温続く
日本付近は高気圧に覆われるが上空の寒気の影響で、今日も全国的に低温続く。九州～四国は気圧の谷の影響で雨。関東甲信では上空寒気の影響でわか雨。



今月のひまわり画像—2010年5月

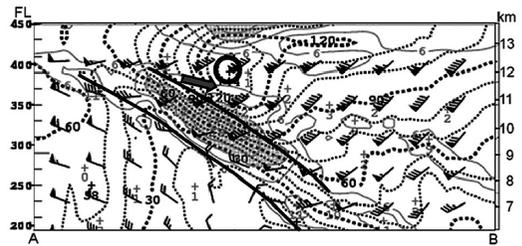
トラフ前面にのびるジェットシーラス



第1図 2010年5月3日21時（日本時間）の赤外画像. A-Bは東経132.5度.
右下：同時刻の300hPa高層天気図. 矢印は300hPa面での強風軸を示す.

今年の5月の連休は比較的好天が続いたが、2日から3日にかけて、日本上空の高度10km付近を中心に複数の強い乱気流が観測された。第1図は5月3日21時（日本時間）の赤外画像である。これによると、フィリピンの東には活発な積乱雲（先端の雲の形状からテーパリングクラウドという）があり、ここからシーラス（巻雲）が九州を通して、関東の東へのびている。

同時刻の300hPa高層天気図（第1図右下）では、東シナ海に深いトラフがあり、トラフ前面の上空12km付近には140kt（1kt=0.51m/s）程度の南西風のジェット気流があった（第2図）。このジェット気流の下方にはトラフ付近の弱い北～北西風、および北緯40度以北からの別のジェット気流（上空11km付近）接近に伴う50kt程度の北西風（東日本付近で顕著）が存在し、高度約8.5～11kmに非常に大きな鉛直ウィンドシアアが形成されていた。この領域は、気団の境目である上空の前線帯に対応していた（第2図参照）。



第2図 第1図と同時刻の気象庁毎時大気解析の断面図（第1図中のA-B）。風、破線：等風速線、灰色の実線：鉛直ウィンドシアア（VWS）の等値線（灰色の領域：12kt/300m以上のVWS）、○印：ジェット気流の核、2本の黒太線は前線帯の上下端を示す。

第1図のシーラスは、衛星画像の解析による雲頂高度が11.5km前後であることから、ジェット気流直下から上空の前線帯の間（第2図中の矢印）で形成されたと考えられる。

（気象庁予報部予報課航空予報室 大野滋規）